

「文化観光」の 問題点

— 上田市日本遺産を事例に —

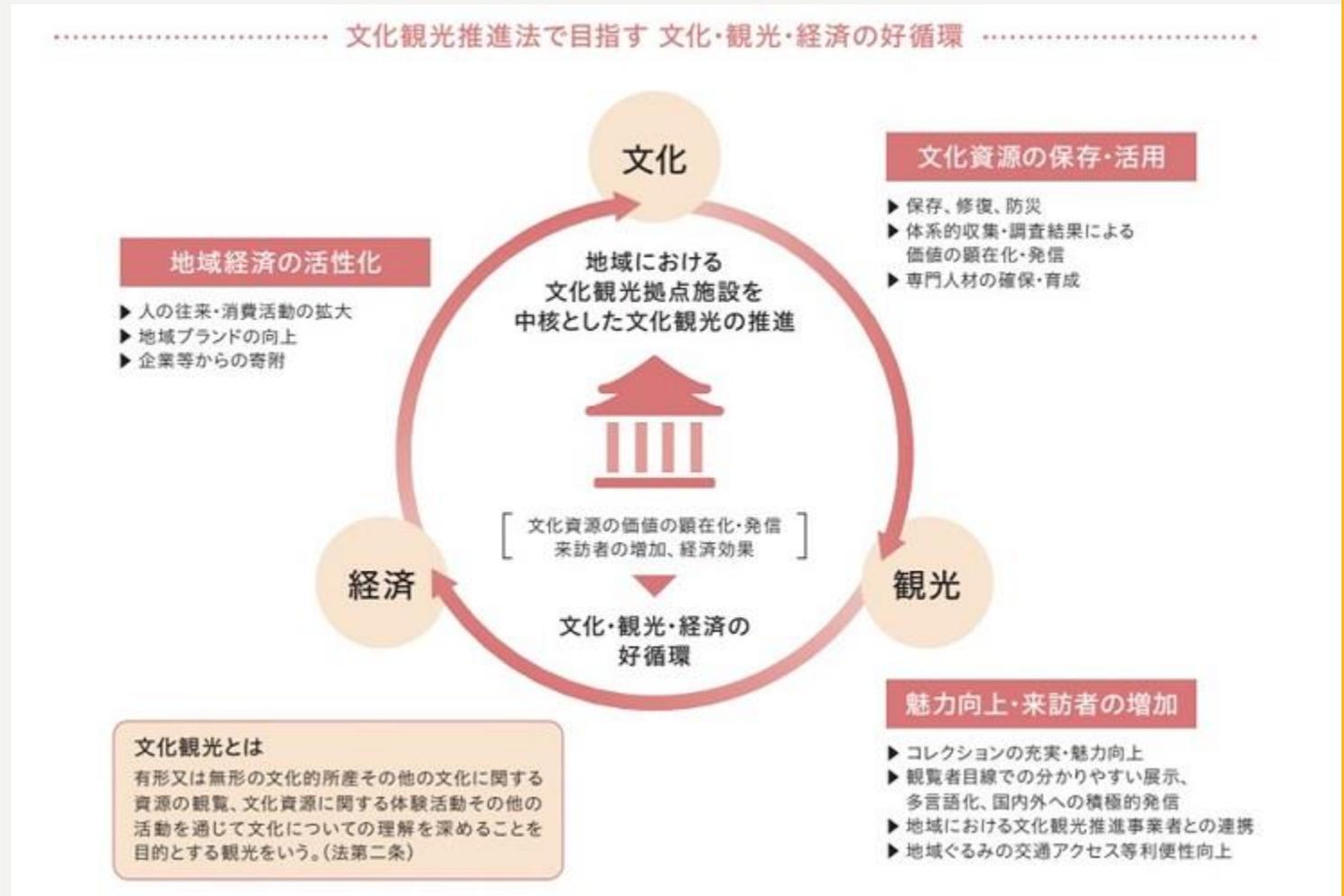
人文学科社会文化コース人文地理学研究室4年

高橋凜

はじめに

「文化観光」 ...

文化観光推進法
(2020) ... 文化資源
の観覧や体験活動等
を通じて文化につい
ての理解を深めるこ
とを目的とする観光



画像：

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/bunkakanko/index.html

はじめに

「日本遺産」...文化観光の先駆け

- 2015年から文化庁が主導している事業
- 地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語る
「ストーリー」そのものを「日本遺産」として認定
- 「ストーリー」に含まれる文化財群を総合的に活用

《方向性》

- ①地域に点在する文化財の把握
- ②地域全体としての一体的な整備・活用
- ③国内外への積極的かつ戦略的・効果的な発信

はじめに

- 日本遺産の効果...地域住民のアイデンティティの再確認や地域のブランド化
- 上田市も「シビックプライド」の醸成



- 「ストーリー」に「地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている伝承, 風習」とは異なるものが含まれていたら？
 - そもそも文化と観光をつなげることは適切なのか？
- 既存の日本遺産に関する研究では具体例と共に示されていない

先行研究 「観光」とは

- ブーアスティン(1965)

近代における観光客は、労苦を伴うようなことはせず、メディアによって生み出された「疑似イベント」(偽物である可能性もある)という事実を確認する

- 橋本(1999)

「(観光者にとっての) 異郷において、よく知られているものを、ほんの少し、一時的な楽しみとして売買すること」、正しくなくとも「よく知られているもの」を発見するもの(川森2011)→これらから生まれた「観光文化」

→これらの考えに基づく

先行研究 観光における加工

- 観光対象として対象を扱う場合ハード面、ソフト面ともに工夫・加工がなされる
- 「容易に接近し又十分に鑑賞し得る状態」(田中1950)、周囲の施設といった「人工的に開発した観光資源」(津田1969)の必要性
- 「観光商品化」須山(2016)...異なる文化的背景を持つものによる異文化消費のため、演出家による演出・変形→消費対象へ

→観光では何らかの形で元の状態からの加工が起こる

先行研究 文化の価値とは

文化や文化財の価値は測りにくい。

- 普遍的でも永続的でもなく、社会的・歴史的コンテクストに依拠する相対的なもの(福田1996)

文化財や文化が本物であることを示す言葉「真正性」→

- 観光/文化財保護(ex.世界遺産)の文脈の違いで異なる解釈(奥野2020)
- 観光でも立場、見解の違いから多様な解釈(馬ほか2016)
 - ①固有のもので客観的に測れるもの
 - ②(観光により)新たに構築されるもの
 - ③観光客が体験した事象から生まれるもの

先行研究 文化の価値とは

- ただ、尺度がないわけではない
- 観光で生み出された文化は住民にとっての文化であるか？ そうではないか？
 - 例) 観光用の文化とは異なる住民の生活(橋本1999)
 - 観光による自分たちの間違った表現に憤りを感じる少数民族(豊田1996)
- 地域住民による「観光文化」と自らの文化との間に感じる相違は存在する

研究目的

「観光文化」と地域の文化は切り離して考えるべき(橋本1999)

→日本遺産ストーリーによって生み出された文化が地域の文化から乖離していることを示すため、調査を行い「レイライン」使用の理由を明らかにする。そして、観光という分野と文化財の保護という本来混同してはいけない分野の混同により、観光向けの文化を地域の文化と混同・同一化する日本遺産のような「文化観光」の問題点について指摘する。

調査対象地、調査対象

- 長野県上田市...長野県東部に位置。2006年3月6日に旧上田市・丸子町・真田町・武石村が合併し、現在の市域となった
- 日本遺産「レイラインがつなぐ『太陽と大地の聖地』～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～」
- 2020年に認定



調査対象

《ストーリー全文》

独鈷山と夫神岳から扇状に開ける地・塩田平は、古来「聖地」として、多くの神社仏閣が建てられている。

山のふもとにある信州最古の温泉といわれる別所温泉、「国土・大地」を御神体とする「生島足島神社」、「大日如来・太陽」を安置する「信濃国分寺」は、1本の直線状に配置され、レイラインをつないでいる。

夏至と冬至に、鳥居の中を太陽の光が通り抜け、神々しくぬくもりのある輝きを享受できるのだ。

先人たちが、この地が特別であると後世に伝えようと遺した様々な仕掛けは、今も、訪れる人びとにパワーをチャージさせる。

(引用：レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」 | 日本遺産ポータルサイト

<https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/stories/story093/>)

レイラインについて

- レイライン...イギリスのアマチュア考古学者アルフレッド・ワトキンスによる古代遺跡は一直線上すなわち古代の道とみなされるレイライン上に発見されるという主張(山田1988), また一直線上に並んでいることに対しての意味を見出すこと(相原1983)
- 提唱当時から懐疑的な意見があった。それに加え、のちにスピリチュアル的な意味も付与される

上田市とレイライン

- 「太陽の道」(相原1983)...女神岳→王子塚古墳→泥宮(㊸)→生島足島神社(㊹)→信濃国分寺跡(㊺)→大日め神社を通る「太陽の線(夏至の日の出と冬至の日の入りを結んだ直線)」が、農業信仰・太陽信仰・意図のある選地をうかがわせる
→他の地元研究者から批判、特集号に掲載されず

- 「太陽と大地の聖地」...聖地研究者内田氏(外部から招聘)が2015年に提唱したキャッチコピー。日本遺産キャッチコピーはこれの再利用。別所温泉→泥宮(㊸)→生島足島神社(㊹)→信濃国分寺跡(㊺)のつながりを風水等を用いスピリチュアル的に表現
→(オカルト的であるため)日本遺産ストーリー作成者は内田氏との接触を控えていた



地域のものとして認めていない市民の存在

上田市とレイライン

上田市日本遺産の「レイライン」...別所温泉→生島足島神社
(D)→信濃国分寺跡(C)

- 資料等はなく、学術的裏付けのないものであると市の資料(上田市2021)では説明されている
- ストーリー作成者...使用に抵抗(最終的には受け入れ)
- 彼の同僚...「あやしいが賭けとして使用」(聞き取り調査より)
- 一部市民...懐疑的な意見、批判(後述)

→地域の文化とは異なると一部住民が判断

国、自治体と観光政策

《国》

- バブル崩壊、リゾート法失敗、国内観光需要の低迷など→観光の産業としての位置づけ、訪日外国人旅行者の獲得へ
- 日本遺産も①2013年のオリパラ時に外国人に地方を周遊してもらうために設立②文化財版クール・ジャパン政策として位置づけ→訪日外国人旅行者をターゲットとして生まれた

《上田市》

- 産業の衰退の解決策として観光を「リーディング産業」と位置付け
- 国内外への発信を行ってきた(千本桜、真田一族)

上田市における日本遺産導入理由

大河ドラマ「真田丸」後の観光

- 2016年の「真田丸」放映以前から、真田丸後の新たな観光の必要性が議論されてきた。
- このような背景があり、ポスト真田の観光政策として2015年12月に日本遺産認定を目指すことが示された

インバウンド獲得、宿泊観光客の増加を目指すことも議題に挙がっていた

「レイライン」使用の要因

ストーリー作成者、その他関係者への聞き取り調査

① 一体感を出すテーマの必要性

- 初年度の落選時や文化庁からのアドバイスにより、コンパクトで一体感のあるテーマの必要性を感じる→「龍」「レイライン」が選ばれる

② 既存のキャッチコピーとの差別化

- 「信州の鎌倉」との差別化を図る新たな表現
(理由)鎌倉と塩田平は異なるものと感じたから、「信州の鎌倉」を否定したくはなかったから

「レイライン」使用の要因

③外国人への分かりやすさの重視

- 「鎌倉」「真田」の含有する意味は外国人は分からない、使
用しない方が良い(アドバイス)
- 「龍」はドラゴン、「レイライン」も太陽が差す線とすれば
説明・理解が容易

④作成体制

- 「レイライン」の使用を提案したのは上田市の文化財に詳しく
ない外部の方(広告会社より派遣)
- ストーリー作成に関わったのはごく少人数、それ以外の職員
による関与・修正は行われなかった

「レイライン」使用の要因

⑤ インパクト、認定の優先

- 過去の認定状況から、インパクトさえあればどうにかなると判断
- 「龍」ではなく「レイライン」が選ばれたのは、インパクト、独自性、そして認定の可能性を考慮してのこと

ストーリーの地域住民への発信

日本遺産を通じて

文化庁...「地域住民のアイデンティティの再確認」

上田市...「シビックプライドの醸成」

「日本遺産短編小説集 信州上田10ストーリーズ」発行

→文化庁「ストーリーを体感できる構成要素がない」

これを受け製作

→市民からも関心(県内書店初週一般書2位、次週3位)

ストーリーの地域住民への発信

絵本「おひさまはみている」発行

→太陽と龍神への信仰とそれにまつわる民話

→市内の小学校（全学級1冊ずつ）、中学校（各校2冊ずつ）、公民館（2冊ずつ）、図書館（5冊ずつ）に配布

どちらも「レイライン」を元々存在していたかのように紹介例） 「おひさまはみている」

「それは信濃国分寺から塩田平の生島足島神社の鳥居をぬけて泥宮へとどくレイラインといわれています」「昔の人はそこにひをまちのぞんでいたかのように...(略)」

考察 観光文化としての日本遺産

- 異邦からの観光客と彼らに向けた観光
- 対象である外国人は文化の学習よりも簡単に文化を感じられるものを好む(文化庁2015b)→実際に「一時的な楽しみ」を求めている
- 上田市日本遺産ストーリーは①観光における加工、商品化の発生
②外部からの信憑性のない概念の使用→地域住民の意識や加工前の文化から見れば「まがいもの」
- 理解のしやすさの重視→「よく知られているもの」への加工



日本遺産ストーリーや制度そのものが想定する“観光”

→橋本(1999)が定義する狭義の“観光”

→地域文化とは違う“観光文化”

考察 外部からの意味付けと住民の日本遺産への意識

《外部》

- ストーリーはその地域の歴史や文化財に関する専門的知識を持たない人でも理解や興味を示せるものを要求
- 訪日外国人旅行者への意識(各政策から)
- 外部の文化財に詳しくない人が持ち込んだ「太陽と大地の聖地」「レイライン」
- 審査員(会社役員、漫画家、放送作家、外国人)→文化財に精通しているのか？

考察 外部からの意味付けと住民の日本遺産への意識

《上田市民》

- ストーリー作成職員(とその同僚)、上田市...学術的裏付けがないことを認識、(内田氏に)関わらない、「あやしい」
- 市民、議員...一部批判の声 ただ「レイライン」について言及しないものも存在
- 市民(ブロガー)...レイラインという言葉自体についての批判、市の「レイライン」のあいまいさへの批判など

考察 外部からの意味付けと住民の日本遺産への意識

「レイライン」...外部の観光客に向けて外部からもたらされた概念であり、地域の文化として認められていないもしくは懐疑的な意見



地域住民という視点から見ると真正でない「まがいもの」文化庁の定義する「地域文化」...「地域で生まれ、育まれ、継承されていくもの」ではない？



地域の文化とは別のものである

考察 日本遺産の問題点

問題点① 信憑性のない概念の認定

- 「活用」の重視により元々の文化とかけ離れる(過去認定ストーリー、地方自治体)
- 文化財や文化に詳しくない可能性が高い人物による審査

※ただし加工・商品化自体が悪いものとは言えない

先行研究の通り、観光対象としての活用にはハード・ソフト面での工夫が必要

考察 日本遺産の問題点

問題点② 「観光文化」と地域の文化の混同、住民アイデンティティとしての「観光文化」の活用

- 上田市...市民、子どもへの「レイライン」発信
- 混同は「観光者受け入れ社会のアイデンティティの危機」、「自文化」を守れなくなる（橋本 1999）
- 抵抗もし難くなる可能性 制度的承認をもって許可→地域において支配的なものへ(金子2020)

→日本遺産の最大の問題点

「文化観光」の問題点と展望

- 「まがいもの」である「観光文化」で収入を得、ハード面の保全、後継者の育成→だが意味・歴史といったソフト面や地域の文化が損なわれる→果たして文化の保全と言えるのか？
- 橋本の定義から脱却した「観光」であるなら👉は問題にならないが、現状はそうではない　それでも産業の衰退等もあり観光へ頼らざるを得ない
- 観光と文化財を結び付け、そこから生まれた「観光文化」を地域住民のアイデンティティのために用いるのであれば、せめて住民の認識とのずれを極力なくすため、制度などにおいて適切な審査を行うべき

課題・今後の展望

地域住民にとっての文化とは何か？→はっきりさせる必要がある

アニメ・漫画を用いた「聖地巡礼」観光との共通点・相違点があるのではないか？(キャラクターや出来事は地域に存在していない「まがいもの」であるのになぜ好意的に受け入れられている例があるのか？)

参考文献

- ・ 相原文哉 1983. 塩田平・古代のロマンを追って：太陽の線. 信濃路 42:202-205
- ・ 上田市 2021. 『令和2年度 上田市日本遺産補充調査報告書』
- ・ 上田市日本遺産推進協議会編 2025. 『日本遺産短編小説集 信州上田10ストーリーズ』講談社.
- ・ 奥野耕平 2020. 文化財保護と観光との文脈を結合した「真正性」概念の課題検証. 日本文化政策学会若手研究者交流セミナー2020 発表要旨
- ・ 金子淳 2020. 博物館を取り巻く「物語性」をめぐって～「観光立国」政策と日本遺産を中心に～. 桜美林論考. 人文研究 11:80-96
- ・ 須賀隆章, 小川真実 2018. 佐倉市の文化財行政と「日本遺産」. 千葉大学人文公共学研究論集36:198-209
- ・ 須山聡 2016. 奄美大島の観光における地域の資源化と商品化. 歴史地理学 58(1):41-56
- ・ 高橋光幸 2014. 観光資源の定義と分類に関する考察. 富山国際大学・現代社会学部紀要 (6)109-125
- ・ 田中喜一 1950. 『観光事業論』観光事業研究会
- ・ 津田昇 1969. 『国際観光論—観光輸出の理論と政策』東洋経済新報社.
- ・ 豊田三佳 1996. 観光と性:北タイ山地の女性イメージ. 山下真司編『観光人類学』新曜社.
- ・ 馬夢妍, 羽鳥剛史, 小林潔司 2016. 天草南蛮文化のオーセンティシティと観光開発. グローバルビジネスジャーナル2(1):29-40
- ・ 橋本和也 1999. 『観光人類学の戦略』世界思想社.
- ・ 福田珠己 1996. 赤瓦は何を語るか--沖縄県八重山諸島竹富島における町並み保存運動. 地理学評論69 (9):727-743
- ・ 文化庁 2015a. 「日本遺産 (Japan Heritage)」事業
- ・ 文化庁 2015b. 文化財の効果的な発信・活用ガイドブック
- ・ 文化庁 2020. 『令和2年度日本遺産審査委員会委員名簿』
- ・ 山田俊雄 1988. レイ・ライン=古代信仰の方位線について. 獣医情報科学雑誌 1988(21):17-27.
- ・ D.J.Boorstin著 星野郁美, 後藤和彦訳 1965. 『幻影の時代』東京創元社. D.J.Boorstin, 1962, The Image: or, What Happened to the American Dream, Atheneum

参考ウェブサイト

- 文化観光

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/bunkakanko/index.html

- レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」 | 日本遺産ポータルサイト

<https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/stories/story093/>

- 文化庁. nihon_isan_pamphlet.pdf

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/pdf/nihon_isan_pamphlet.pdf

- 太陽と大地の聖地 別所温泉

<https://www.bessho-onsen.jp/>

- 日本遺産 関連ログ(信州上田)

<https://sites.google.com/view/leylineda/log>

- 見学体験日記

<https://kengaku2.blogspot.com/>

- 絵本「おひさまはみている」デジタルパンフレット

<https://www.city.ueda.nagano.jp/book/list/book55.html>

- 文化政策部会におけるこれまでの主な意見

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/seisaku/02/11/iken.html>

平安堂【書籍・CDランキング】（1月6日～12日、平安堂まとめ）

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2025011500610>

平安堂【書籍・CDランキング】（1月13日～19日、平安堂まとめ）

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2025012100676>